

## 一読の価値ある随筆集

陳 焯

(訳・萩田麗子)

この場をお借りして、中国文学と中国の歴史をこよなく愛している日本人、深谷氏が描かれた随筆をご紹介します。

深谷さんを知ったのは一度代講をしてからのことです。酸素吸入器のカートを引き連れて教室に来られた深谷さんを見て、私は肅然としてえりを正しました。そして深谷さんの随筆を読ませていただき、さらに感服しました。

年によって異なる文章のスタイルや語句の風格が、氏が一步一步着実に中国語の学習をされたことを記録しています。

そして文章中に見られる氏の考え方、観点が、氏が中国を愛し、中国の発展を喜びつつ、同時に中国で出現している憂うべき社会問題をありのままに見ようとしているその姿勢を明らかにしています。

氏の随筆の主な部分は事柄の記録ですが、時には内容が広い話題に及んでいるものもあり、随筆の持つ「随感」、「雑感」「写情見性（文は人なり）①」という特徴を具体的に表しており、このことが、私がこの「雑文集」を好きな理由であり、中国文学の好きな友人たちとこの随筆を共に味わいたいと思う理由なのです。

深谷さんは、齢（よわい）八十に近くして重い病を患いながら、中国語の学習を一日も休んでいません。氏自身の言を用いて言うならば「生きている限り学び続けよ」です。これはある種の精神であり、私たちが学ぶに値する精神です。

最後に、深谷さんの一日も早いご快復をお祈りしております。

①写情見性 感情を述べることでその人の性格を表す、書いた人の性格がわかる、という意。



深谷昂史雑文集より 1

## 自己紹介

北京の友人のみなさん、こんにちは！ 今日みなさんにお会いできて、とても嬉しく思っております。

私の名前は深谷といいまして、“深”は広東省深圳の“深”、“谷”は“山谷”や“五谷（五穀）”の“谷”です。私の家は東京の八王子市にあります。八王子という名前をみなさんは聞かれたところがありますか？ ないでしょうね。八王子は東京の西に位置する小都市で、人口は五十数万人の小都市ではありますが、北京の海淀区のように、市内には多くの大学があり、それで文教地区と言うこともできますし、中国からの留学生も少なくありません。

私は今年71歳で、10年前に退職し、現在は仕事をしていません。養老年金で暮らしている者にすぎません。我が家は三人家族で、私と連れ合い、それに息子が一人です。息子はすでに36歳ですが、まだ結婚していません。ああ！ 我々老人二人はいったいいつ孫を抱くことができるのでしょうか。

私は中国語を勉強して20年ほどになります。しかし、頭がもともと大してよくないうえにすでに若者ではありませんので、勉強するはしから忘れてしまい、いっこうに進歩がありませんので、まだ難関を突破してはいません。しかし私は、ただ勉強を続けてさえいれば、きっと中国語をマスターできると、信じて疑いません。

中国へは私は数回訪れておりまして、特に一線にいたころはしょっちゅう広州へ出張し、何度も広州交易会に参加しました。北京は今回が六回目で、上海、上海、杭州、蘇州、成都、南昌にも行ったことがあります。これらの都市の中で、私はやはり北京が最も好きです。私は北京の古色蒼然とした味わいが好きですが、

胡同や四合院などの愛すべき北京の特徴ある景色が目の前から一つまた一つと消えていっています。高々とそびえる高層ビルはあちこちに建ち、私はこれに対して少しばかり残念な気がします。当然のことながら、私は中国が現在着実に発展しなければならないということを理解はしておりますが、あなた方はやるのがあまりにも速すぎます。そうではありませんか？

私は現在健康状態が思わしくありません。老齡化という以外に、脳梗塞と肺気腫という病を患っています。ああ、これらは「不治の病」と言われていますが、中華民族の文化と歴史をもっと知るために、あなた方の生活と考え方を更に理解するために、私はこれからも痩せた病気の体に鞭打ち、中国語の勉強を続けていきたいと思っています。あなたのお国の周恩来総理が「生きている限り学び続けよ」とおっしゃったではありませんか。ありがとうございました。

(2007年4月)

あの古い都、北京：曲がりくねった胡同、鱗のようにびっしりと立ち並ぶ四合院、老舎がかつて愛した什刹海。あの百年続いているような古い店々が集まった大柵欄……もう一度見物をしたくてたまらない。だが体力が思うにまかせない。(2012年1月20日)

什刹海……北京西北端にある風光明媚な地区で、文化財や遺跡が多く残っている。

大柵欄……北京の老舗が集まっている前門から広がる商店街。



(中国語原文)

## 一本值得一读的随笔集

陳焰

从现在开始想借此平台陆续介绍一位酷爱中国文学、中国历史的日本老人深谷先生撰写的随笔。

认识深谷先生源于一次代课。拖着氧气包来教室的深谷先生让我肃然起

敬；拜读了老先生的随笔更让我钦佩之至。

不同年份的文章的文笔记录下了老人学汉语路上踏踏实实的每一步；而文中的一些立意、观点又阐明了老人喜欢中国，为中国的发展高兴同时也为中国出现的一些社会问题担忧的一种实事求是的态度；随笔以记事为主，也偶发议论涉及的内容面很广，充分体现了随笔的“随感”、“杂感”、“写情见性”的特点，这就是我喜欢这本杂文集的理由，也是我要和喜欢中国文学的朋友们分享的理由。

深谷老人，年近八十，还身患重病，但是学习汉语他一天也没有停止过，用老人自己的话说：活到老、学到老。这是一种精神，值得我们学习的精神。最后愿老人早日康复。



## 自我介绍

深谷昂史

北京朋友们，你们好！今天能见到你们，我很高兴！

我姓深谷，“深”是广东深圳的“深”；“谷”是山谷或者五谷的“谷”。我家住在东京八王子市。八王子，你们听说过吗？没有吧。八王子市是位于东京西郊的一个小城市，虽然是个人口只有五十多万的小城市，但是在东京都的市辖区当中面积最大；像北京海淀区那样，市内有很多大学，所以也可以说是个“文教地区”。从中国留学来的大学生也不少。

我今年 71 岁，10 年前退休，现在不工作了，只不过是个吃养老金的老人罢了。我家有三口人，我和老伴儿，还有一个儿子。儿子已经 36 岁，还没有结婚，咳！我们这对老两口儿，到底什么时候才能抱上孙子呢？

我学汉语已经学了差不多 20 年了。可是脑子生来不太好，而且已经不年

轻了，一边儿学一边儿忘，一直没进步，所以还没过关呢。可是我坚信不疑，只要坚持学习，一定就会学好汉语。

中国，我来过好几次，特别是还在一线工作的时候，常常赴广州出差，参加过好几次“广州交易会”。北京呢，我这回是第六次来，上海、杭州、苏州、绍兴、还有西安、成都、南昌这些地方，我都去过。在这些中国城市当中，我觉得还是北京最好。我很喜欢北京这座城市的那股古色古香的风味儿，可是呢，胡同儿、四合院等那些可爱的京城特色的景象目前一个又一个地消失；高入云霄的大楼到处拔地而起，我对此觉得有点儿遗憾。当然我也了解，中国现在确实需要发展，可是你们搞得太快了，对不对？

我现在身体不大好，除了衰老之外还患有脑梗塞和肺气肿这两种病。咳，听说这都是“不治之病”，然而呢，为了更多了解中华民族的文化历史，为了更理解你们中国人的生活和想法等，我今后也要鞭策瘦弱多病之身来坚持学习汉语。贵国的周恩来总理不是也曾经说过“活到老，学到老”吗？谢谢。

（2007年4月）

*北京那座古古老老的城市：弯弯曲曲的小胡同，鳞次栉比的四合院、老舍曾经热爱的什刹海、那些百年老字号聚集的大栅栏儿……我恨不得再逛一次、可是已经力不从心了。（2012年1月20日）*

